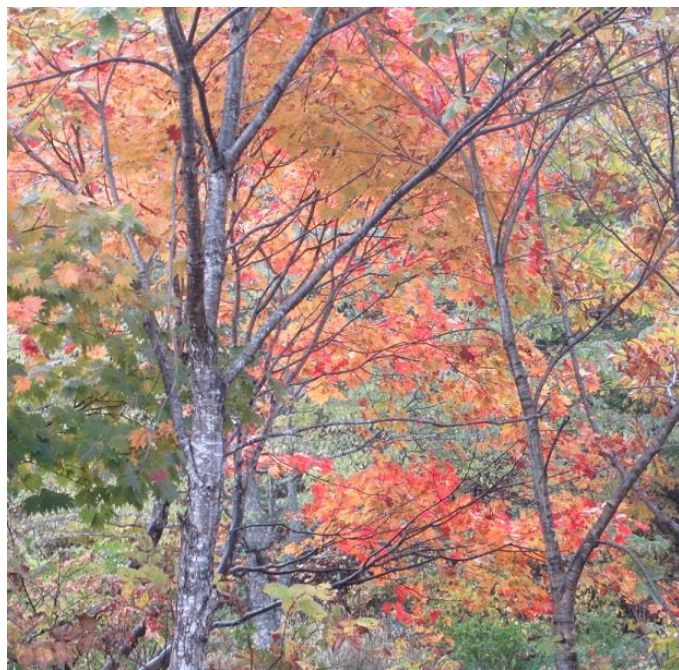


茅 風

— Breeze from the field of thatch-grass —

2018年1月12日  
森林塾青水  
事務局便り  
茅風通信53号

上ノ原の紅葉

|                            |    |
|----------------------------|----|
| ■ 9月後半～12月の活動報告(事務局) ..... | 1  |
| ■ 2017 定例活動⑥ .....         | 2  |
| 「日光茅ポッチの会との連携プログラム」        |    |
| ◆開催報告(草野 洋)                |    |
| ■ 2017 定例活動⑦ .....         | 3  |
| 「茅刈り—雨の中の茅刈りも楽しく—」         |    |
| ◆開催報告(草野洋)                 |    |
| ◇参加者レポート(新栄子・清塚道浩・中谷扶美子)   |    |
| ■ 麗澤中学校「奥利根フィールドワーク」 ..... | 6  |
| ◆開催報告(草野洋)                 |    |
| ◇FWまとめを指導して(藤岡和子・草野洋)      |    |
| ■ 2017 定例活動⑧ .....         | 8  |
| 「茅出し・山の口終い」                |    |
| ◆開催報告(草野洋)                 |    |
| ◇車座講座報告(稲貴夫)               |    |
| ■ 藤原現地報告(北山郁人) .....       | 10 |
| ■ 野守のつづやき(清水英毅) .....      | 11 |
| 編集後記                       |    |

(敬称略)

## 【9月後半】

- 30日、10月1日 日光茅ポッチの会とのコラボで「土呂部草原で茅ポッチづくり」(会員限定)12名参加、茅ポッチの会5名とともに、ポッチづくりほか。

## 【10月】

- 3日 みなかみ町エコパーク認定証授与式・基調講演、地域活動発表会に招聘され参加。(昆虫保護条例に指定されている5団体のひとつとして)  
発表会では草野塾長、北山塾頭がプレゼンテーション、交流会には清水顧問が出席。
- 15日、みなかみ町長選挙が行われ、前田善成氏が新町長に。
- 21、22日 一般参加歓迎プログラム「茅刈」実施。27名(含む日帰り1)参加、町から高田課長、小林GLが参加し、テントなどを準備してください。雨の中合計69ポッチが出来上がる。初のころもとして茅刈数に応じて地域通貨「ポッチ券」配布したところ、直売所は大いに賑わう。車座講座は群馬県自然環境調査会の夏目道生氏による「小動物について」。蝙蝠の標本、スライド、生きているもの！を見ながら解説。近所の子供も来て興味深々。

- 尾島会員、藤岡会友が定例活動の茅刈終了後、古民家に泊まり込みで茅刈を実施。生憎の天候で沢山は刈れなかったが、地元の茅刈り衆が高齢化などで少なくなる中、刈茅の不足対策として初の試み。今後地元若手などにも働きかけていく予定。
- 麗澤中学校「奥利根フィールドワーク」実施。5クラス148人。「草原であそぼう」と題しての、茅とばし、葉っぱなどでのハガキづくり、目隠しトレイルなど新しい取り組みも好評。

## 【11月】

- 18、19日 一般参加歓迎プログラム「茅出し、山の口しまい」実施。会員13名、会友5名が参加。全部で2305束(うちボランティア分475)を山からおろすとともに、トラックへの積み込みを手伝う。  
車座講座は地元酒店の中村智子さんが、地元で撮影した野鳥および一部動物の写真を解説し、好評。

## 【特記事項】

- 地域通貨ポッチ券が10月の茅刈で51枚、11月の茅出しで37枚(各200円相当)が配られ、受け皿になった直売所ではついで買いの現金売上もあり、総額3万円以上の地元物産を購入。

(以上)



## ■2017 定例活動⑥ 「土呂部草原で茅ボッチづくり—継続はタカラを造る—」 草野 洋

今年 6 回目の定例活動「日光土呂部草原での茅ボッチづくり」を9月30日、10月1日の一泊二日で実施し、12名が参加。東武日光駅に集合の後、レンタカーと自家用車で土呂部へ・・・。

季節は異なるが今回で 3 回目の土呂部での活動である。宿舎の水芭蕉苑の前では飯村代表をはじめ日光茅ボッチの会のメンバー4人と秋の草花を盆花風に飾った目玉ボッチの出迎えを受ける。この花の中に大好きな花の一つであるリンドウを見つけた。飯村さんによるとカップパ(草地)にも咲いているとのこと、最後に野生のリンドウを見たのは 10 年以上も前、



目玉ボッチと盆花

この花は青春の思い出の花でもある。

この日は気温が低く土呂部は初霜だったとのこと。これから木々の彩が鮮やかになっていく前触れだ。

昼食後、飯村さんに植物などの解説を受けながらカップパに向かう。この日の作業はボッチづくり、ボッチの用途は上ノ原が主に茅屋根資材であるのと違い牛の冬場の餌(刈干:カッポシ)であるから、ボッチの材料はススキだけでなくあらゆる草が混ざってもかまわないし、草丈も短いので比較的楽である。ただ、硬いシラカバ、ハギ、ヤマナラシなどの木質系は除かなければならない。飯村さんによると牛は栽培した牧草より野生の草が混じった干し草の方が食べっぷりが良いとのこと。同じ種類で同じ味の食べ物を食べるより、いろいろな味のする草が栄養のバランスも良くおいしい、それに牛舎にいても厳しい寒さの冬場の餌として、薬効などもある野草もまじっているので体に良いことを本能で知っているのだろう。以前、栽培種の牧草だけを食べている牛は流産率が高いと聞いたことがある。

ボッチづくりの手順は、あらかじめ機械刈りした野草を集めて直径 5 寸ほどの束にまとめて、下から1/3ぐらいより少し上をススキで縛り雑木を取り除く。これを5束つくりまとめて立て、ボッチの腰のあたりで縛り、穂先も縛って出来上がり。ススキだけでなく雑多な草も一緒なのできれいな円錐形のボッチにはなりにくく、立ち姿も良くない。やっているうちにそれぞれの束は下だけでなく上の方も縛ってみたらまとまりがよくきれいなボッチ姿になった。ひと手間多いがその後はこの方法を使った。



左上 刈った草を鎌で集める

右上 ボッチを立てる

左下 立ち姿がきれいなボッチ



山際と青空の境がくっきりとした素晴らしい秋晴れの中、遠くに佇む集落が見える風景の中のボッチづくりは楽しく、日光に来てよかった。他所のフィールドを経験することは自分のフィールドを見直し継続するチカラとなる。参加した仲間たちの満足げな顔もうれしい。



山際くっきり、青空、集落



ボッチのある風景

ボッチづくりのすぐそばに野生のリンドウが咲いていた。作業が終わり、フィールドを案内してもらった際は歩道の脇でも見ることができた。幸せな気分にな



左上から時計回りに、リンドウ・ウメバチソウ・カラハナソウ・アキノキリンソウ・アケボノソウ・コウリンカ

り一瞬、昔日にタイムトラベルしたような気分になり周りが見えなくなり一人の甘酸っぱい世界に。

土呂部草原は植物、特に花の宝庫である。何気なく絶滅危惧種が咲いていて驚かされる。草原、湿地(水芭蕉園地)、森林、モザイク状の自然ということもあるがなにより草原などを利用する作業が営々と続けられたことが生物多様性の保全につながっている。まさに「継続はタカラを造る」である。今回出会った草花、カラハナソウ(ホッ





1日目の作業終了 皆さんいい顔です

ブ)、ナベナ、コウリンカ、ウメバチソウ、アケボノソウ、アキノキリンソウ、リンドウなどはその一部である。

民宿水芭蕉苑は居心地がいい。食事は地元料理でおいしい。おかげで交流会也大盛り上がった。

2 日目は、早起きして散策、お目当ては今年栃木県



左:カジカエデ(切れ込みが直線的)

右:クロビイタヤ(切れ込みが鋭角)



タネ(羽が水平)



樹皮(黒く亀裂が多い)



幻想的なクロビイタヤのある沼

らの散策となった。「クロビイタヤ」は「カジカエデ」と間違いそうなカエデである。よく見ればその違いは明らかであるが、ちょっと違うぞと気づかれた茅ポッチの会の観察力に頭が下がる。おかげで初めてクロビイタヤを見ることができた。

クロビイタヤのある場所は沼地や河川の近くの水分の多いところ。沼から霧が湧きたつ景色に感動しながらの散策となった。

”朝霧に 仲間の声も 湧き上がる”

朝食後は、昨日に続き茅ポッチづくり、かなり捗ったので途中、機械刈りをして追加することに。

作業終了後、大滝

を見て、地そばで昼食を食べ、来年はワラビのころに訪れようかとの声を残して土呂部をあとにした。

## ■2017 定例活動⑦「雨の中の茅刈りも楽しく—地域通貨ポッチ券も登場—」

草野 洋

台風 21 号が日本本土に上陸するおそれが強まった 10 月 21 日、22 日、今年の茅刈が実施された。新潟湯沢町の予報は 21 日が曇り時々雨、22 日は終日強い雨である。上ノ原に着いたときはすでに降り出していて全員がレインウェアを着用することになり、役場に用意していただいたテントの中でののはじまりの式となった。

上ノ原は霏と小雨で紅葉も良く見えない。夏の天候不良でススキの生育もあまりよくはなく、葉もまだ青い。その上、今年は初霜もまだとのことである。

何よりも今年の茅刈はいつもの年季の入った顔が見えないのが寂しい、惣一郎さんが亡くなり、三郎さんも健康面から来られない。藤原の茅刈衆が少ない分ボランティアの力の見せ所と期待して塾長が酒断ちまでしたのにこの天気である。

今回から、飲水思源地域通貨「ポッチ券」を刈ったポッチ数に応じて配布する新たな試みをはじめた。1ポッチ(5 束)を刈ると200ポッチ(円)のポッチ券がもらえ、農産物直売所で藤原の農産物が買える仕組みである。はじまりの式でこのことを説明して奮闘を促す。



飲水思源地域通貨 200 ポッチ券とポッチに着ける荷札



このあと、それぞれが鎌を研ぎ、雲越萬枝さんに茅刈り、ススキでの結束による束の作り方、ポッチの立て方をご指導いただいた。(写真左:上下)よい



茅がびっしり生えたところを目指すこと、鎌で刈るときは茅を抱え込む(抱き込む)こと、きれいで倒れないポッチづくりのコツは、束を結束するとき葉の高さの下から65%のところで縛ること、ポッチを縛るときは同じ身内の茅で縛ることなどを実演いただき、参加





上 どうだ 下 出来ました



者はススキの中に入っていた。

そう強くはないが雨は相変わらず降り続ける中でも、皆さんボッチづくりで一生懸命である。声をかけると元気な声が返ってくる。作ったボッチの前でカメラに見せる笑顔は誇らしそうである。

♪♪ 鎌を持つ手が震えてる、ボッチくられ嬉しそう、笑顔がこぼれて一、雨に煙り～ ボッチも濡れてる～ 笑顔あふれる茅場で～す  
思わず出た歌詞は「麦畑」のパクリ。

全員が1ボッチ以上を作った頃合いの15:30に終了の合図をだした。

終わりの式で全員から作ったボッチ数を聞くと、少ない人で1ボッチ、多い人は4ボッチとなった。2時間半で4ボッチは1日にすると10ボッチはできる茅刈土捕のレベルである。全員の数を集計すると69ボッチとなった。



69ボッチが雨の上ノ原に



左 初霜がなく、まだ残って咲いていたシシウド 右 今年も見れた自然しか出せない色合いのマユミとツルウメモドキ



本来はボッチに名前を書いた荷札を付け、2日目が終わった時点で検査して合格したものに1ボッチにつき200ボッチ券を渡す手はずであったが、翌日が強雨で作業ができないと判断して、その日の夕食時に各自にボッチ券を渡した。

この日の宿は、料理に定評のある「とんち」。満腹になったところで異色の車座講座が開かれた。講師は藤原

や尾瀬などでコウモリ、ネズミ、モグラなどの動物を研究されている群馬県自然環境調査研究会の夏目道生さん。この春まで小学校の理科の先生であったが、45年前から藤原に拠点をもちコツコツと研究されている。

空を飛ぶ、また土の中にいる夜行性の小動物であるコウモリ、モグラは見たくても見られない。その標本や迫力ある写真、撮りためたスライドを駆使しての講座であるが、究めつきは生きたウサギコウモリ、ユビナガコウモリの登場（もちろん研究のた



めの許可を得て捕獲されたもの）である。実物による解説には説得力がある。自然界には様々な生き物がいてそれぞれの役割を果たしている。人間が彼らに少なからず影

響を与えていることを自覚しなければならないことを痛感させられた。実に面白くためになる講座であった。このような方が藤原に居られたとは知らなかったが。藤原のタカラは自然、そして人である。



上 愛おしく動物を語る 下 本物登場

2日目はやはり朝から雨、それも強い。上ノ原に下見に行き、作業は無理と判断。紅葉のシーズンでもあり、照葉峡の紅葉狩りに切り替えた。ちょうど紅葉の盛り、雨の日の紅葉もしっとりとしてなかなかよろしく、写真写りもいい。



緑に戻りそうな雨の中の紅葉

そして、久保にあるNPO 法人 奥利根水源地域ネットワークの地域農産物直売所に立ち寄り、もらったボッチ券を使って初めての買い物。花マメ、カブ、食用菊、炊き込みご飯のおにぎり、手作り草履などを購入。その間直売所の賑わいぶりははさながら台風のようなものであった。飲水思源地域通貨ボッチ券の威力抜群である。そして台風に向かうように帰路についた。

雨に降られた茅刈であったが、楽しく収穫の多い茅刈であった。



## 茅刈りと思い出の上ノ原

新 栄子

上ノ原で茅刈り？初めて聞いたことでした。久しぶりにお会いした駒井さんより聞き、私が以前より気になっていた上ノ原に行ける事が嬉しく参加することにしました。結婚した夫がこよなく愛した上ノ原。春の山菜取り、夏は高原の散歩、秋のキノコ狩り、冬スキーと一年をとうして通っていた上ノ原でした。しかし夫が亡くなり、子育てが終っ、足が遠くなっていたのです。

心の中でいつも行きたい、会いたいと思っていたのは上ノ原山荘の林さんです。出かける前に連絡がつかず、上ノ原山荘には別の方が住んでいるとわかり、林さんには会えないものと思って出かけました。約10年ぶりに訪れた上ノ原は、民宿が数件新しく出来たようでしたが、上ノ原山荘は依然のたたずまいでした。茅刈りの折、ポッチ作りを指導いただいた雲越さんに林さんの消息を聞きましたら、雲越さんのお孫さんと林さんの息子さんが結婚していて、林さんの携帯を教えて頂き、その夜に連絡が取れ、嬉しい限りでした。森林塾の活動を知り、上ノ原を大切にしている方々ともお知り合いになりました事に、感謝しております。これからもますますの活動の発展を、お祈りいたします。

## 「錦秋の茅場で茅刈り・ポッチづくり」に

初めて参加して

清塚 道浩

当日は台風21号が勢力を強めながら本州に近づいている状況であり、上ノ原は雨が降ったり止んだりしている状況でした。まずは全員で活動拠点となるテントを組み立て、お昼を食べました。参加者が次々と集まり、最終的には20数人になりました。

いよいよ茅刈り・ポッチづくりの始まりです。地元の方から鎌の使い方や茅の纏め方などを丁寧に教えていただき、デモンストレーションをしてもらいました。手慣れた様子で作業を行い、あっという間にポッチが完成しました。

参加者がそれぞれ茅場で作業することになりました。実際に茅場の中に入ってみると、自分の背丈以上の茅に囲まれ、その合間から山々が覗き見え、自分は今、藤原の自然の中にいるのだと実感しました。

教えて頂いたとおりに作業をしていたものの、やはり見るのとやってみるのとは大違いでした。鎌でスムーズに茅を刈るのは難しく、刈った茅を纏めてポッチにしてもなかなか自立しません。結局、作業時間で仕上がったのは1ポッチだけでした。それでも爽快な達成感を味わうことができました。

宿泊場所であるロッジとんちへと移動し、入浴や夕食を済ませました。車座講座では、夏目道生氏から藤原地区に生息するコウモリやモグラなどの小型哺乳類に関するお話を伺いました。その後は部屋に集まり飲み会です。各自で持ち込んだ日本酒やつまみで大いに盛り上がりました。日付が変わった頃、私は部屋で寝よ

うと思っていたところ、まだ飲み足りないという方が部屋に来てまさかの延長戦……。眠い目をこすりながら参戦していたものの、途中で寝てしまいました。

翌朝、台風21号は本州に一層近づいており、東海地方や近畿地方への上陸が見込まれていました。藤原地区の雨や風も強くなっていたため、残念ながら本日の上ノ原での作業は中止となり、照葉峡などの紅葉スポットを巡ることになりました。

照葉峡はちょうど紅葉の盛りの時期であり、水の流れと紅葉のコントラストが美しかったです。滝壺や川の流れから発生するマイナスイオンにより、心身ともにリフレッシュできました。私は見学後に所用のため自宅に戻ってしまいましたが、他の参加者の方は引き続き他の紅葉スポットを楽しまれたようです。

今回の参加により、藤原地区の自然を体験することができ、充実した週末となりました。森林塾青水の皆様、有難うございました。

## 「今後の課題」と「私の手のひらの問題」

中谷 扶美子

初めてみなかみに連れて来てもらった時、最初に目に留まったのが茅葺の民家でした。茅葺は不思議です。トタンで缶詰になっていても、心をぐっとつかむ魅力がにじみ出ていると思います。

学生時代に建築と文化財について学び、今もそのような仕事をしていることもあり、茅葺の維持にかかる手間については、「今後の課題」としてよく見聞きしてきました。茅場がない、担い手がいらない、葺ける職人がいない、などなどです。

ところで私は、「今後の課題」というフレーズがあまり好きではありません。どことなく漂う他人感に気がなります。自分が使うときにそういうことが多いからなのですが。

前置きが長くてすみません。今回の茅刈りは、その「今後の課題」が「私の手のひらの問題」になったできごとでした。お恥ずかしいことに茅

刈りは初めてで、まず鎌の研ぎ方、使い方を知らない自分にびっくりしてしまいました。そしてお手本の洗練された動きの美しさは、実際に刈り始めてからわかりました。覚えたての鎌でわさわさ刈ってみたら雑草だらけ。繰返し刈ってまとめてぎゅっと縛ってもうまく束にならず。なんとかできた2ポッチはどうにも頼りなさげで、私の刈った跡地は無秩序な開発の様相を呈していました。

そして何よりショックだったのは、終盤、手のひらがふるふるして力が入らなくなったことです。昔、台湾の友人





から、手のひらの筋肉は生きる力を表していると聞いたことがあります。茅刈り後のお酒の席で、3ボッチ、4ボッチのみなさまのお話を伺い、友人の言葉は確かにそうだなと今さら腹落ちしました。今回の茅刈りで、私の手のひらも筋肉痛を乗り越え、少し鍛えられたかもしれないです。

茅葺屋根の維持については、「私の手のひら問題」になったところで何も状況に変化はありませんが、春夏秋とみなかみの草原に来て、少なくとも私にも茅を刈れることがわかったことは収穫でした。本当にありがとうございました。次回もよろしくお願いします。

### ■麗澤中学校「オリ根フィールドワーク」 —錦秋の上ノ原で茅刈りなど自然環境学習— 草野 洋

10月26日、柏市にある中高一貫教育の学校法人廣池学園麗澤中学・高等学校の中学1年生148名が藤原上ノ原でオリ根水源の森林フィールドワークを行った。

このフィールドワーク((以下 FW))は毎年実施しているが、昨年から10月の紅葉の美しい茅刈シーズンに行っている。

彼らとは5月に麗澤学園キャンパスの樹木観察会で会っているが、5か月後に再会してみると、身体も大きくなったが顔つきもたくましくなって充実した学校生活を過ごしていることがわかる。

昨日はかなりの雨が降り、前日入りした塾のメンバーは雨に濡れながらの準備作業で大変な思いをしているが、この日は青空が広がり、今朝の初霜にも拘らず比較的暖かい気温である。上ノ原の草紅葉、周囲の山々の紅葉は真っ盛りで、「このような素晴らしい天気と紅葉風景の中でFWができる君たちは幸せだ、この日に設定した学校に感謝しなさい」と彼らに言った言葉は大げさではない。



茅刈に挑戦

今回、前日入りしたスタッフが用意したメニューは様々な工夫が凝らしてある。

まずはメインであるメニュー1は「茅刈」、1グループ15から18人を4組に分け、協力



協力してボッチを作る



ボッチが青空に映えて

メニュー2は、「茅編み」である。スタッフが昨年の茅をスグリ、切断して用意したものを紐で編んでミニすだれを作る茅クラフトである。茅編み機も駒(紐を撒いた錘)も手作りである。何しろ148人が各人一枚作るのでその材料と駒の準備が大変でスタッフは前夜、夜なべをしている(岡田さんの自宅での準備がなければ昨夜のうちに終わっていただろう)。

メニュー3は、雲越家住宅、諏訪神社を見学して上ノ原の屋根茅の使い方を実際に見てもらおう。



草原からミズナラ林へ

このコーナーを全体の遅れを取り戻すための時間調整に使ったため、案内時間が短くなってしまった。それでも、茅場の成り立ち、樹木たちの子孫を残すための様々

して茅を刈り1ボッチを作るのが目標である。手鎌を初めて握る生徒もいるので藤原の古来者とスタッフが念入りに事前の安全指導、茅刈、ボッチの作り方を教え、つきっきりで見守る中での茅刈である。後で生徒に聞いたところ「茅刈」は面白かったとの感想であった。自分で鎌を使い、仲間と協力して一つのものが出来上がるのが良かったのだろう。



写真上 茅編み 下 茅編み機 駒を使って編む

メニュー4は、茅場とミズナラ林の散策である。十郎太の泉から「ははその泉」を経て木馬道、炭窯と回るコースをメインとしたが、



ははその泉で



な知恵、茅場とミズナラ林にいる動物たち、生物多様性の大切さ、葉などに使われる役に立つ樹木、地球温暖化防止に貢献する森林、伐採は悪いことかなどをそれぞれふさわしい場所で解説した。各グループにこれらをすべて解説したわけではないが「ははその泉」で全グループに、天然水を飲んで触ってもらい、この水がここに湧き出るまで何年かかっているかをデーターを与え計算させ、雨水が森林土壌の中をゆっくりしみ込んでくこと、これが森林の水源かん養であり、だから冷たくきれいでおいしい水であることを実感させる。そして、今飲んだ水は、山頂に8年前に降った雨、そのとき君たちは何歳だった？ 昨日の雨は8年後にここに湧いてくる。その時君たちは何歳かと問いかけた。

メニュー5 は、「草原であそぼう」と題して基本は自由時間としているが、藤岡さんと尾島さんがユニークな遊びを用意してくれた。ススキを使った「茅飛ばし」がその一つ。



茅飛ばし



上ノ原だよりを作る



こわいよ～ 目隠しトレイル

が体に触れるなどの自然そのもののサプライズがある。そのたびに嬌声があがる。ほんの短い距離であるがゴールまでの時間が長く感じられるのだろう。私も試してみたが、目が見えないことの不安、不自由さを身をもって体感できて、灌木の感触も何気なく違う。新しい魅力的なメニューの誕生である。

単純な遊びであるが、茅の切り方などで飛び方が違うことがわかりよく飛ぶような工夫をする生徒もいたようだ。

もう一つ、草原や森林で見つけた葉っぱなどをハガキに張りお父さんやお母さん、先生、友達に出そうというもの。はがきは自分が自宅に帰ってから着くことになるが、それが家庭でFWの話題になるだろう。

そして今回の人気メニューとなった「目隠しトレイル」。草原にロープを張り、タオルなどで目隠して、ロープを伝わって歩く仕掛けである。

目隠ししているのので、地面の凹凸に足を取られる、ススキや灌木

今回もケガもなく無事にFWを終え生徒たちも楽しんでくれたようである。塾スタッフ、お手伝いいただいた藤原の古老衆、奥利根水源ネットワークの皆さんに感謝あ



るのみ。

準備の大変さなどを考えると「茅編み」の採用に改善しなければならないところもあるが、毎年少しづつよくしていきたい。

### 麗澤中 FW まとめを指導して —きらりと光る感性発見—

報告 藤岡 和子 記事 草野 洋

このFWの最終日(10月27日)に生徒たちはまとめをしました。まとめには、携わったインストラクターも参加して指導することになっていて従来は塾から参加するのですが、今年は日程の都合で、「草原であそぼう」を指導した藤岡さんに参加してもらいました。その藤岡さんの報告です。

このまとめは、ややもすると事前にネットなどで調べたダムや森林の働きなどをまとめる生徒が少なからずいます。事前の調べは悪いことではありませんが、ネットで調べたことと実際に見て、聞いて、体験して、触れたことは大きく違うはず。インストラクターもそのように指導するよう心がけていますし、プログラムも改良していきます。まとめでは、事前調べをもとにしてもいいが感じたことを自分の感性と言葉でまとめてくれたらいいなと考えています。毎年そのような「きらりと光る」まとめ方をする生徒を見てはいますが、おおかたは事前に調べたことにこだわってしまいがちです。



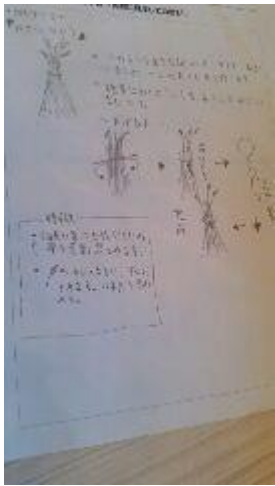
草原からハガキを出そう

ところが藤岡さんが感じた今年のまとめで、素晴らしい感性でまとめた生徒が多かったようです。例えば、①茅刈からボッチの作り方をイラストにした生徒(次頁左上写真参照)、②茅の束を茅を使っ



触れる葉っぱの音の違いに気付くとは！！「見えない上ノ原」





て縛るむつかしい作業を上手にやった生徒、③それを観察して凄いと感心した生徒、④茅編みの時、自分なりの掛け声を考案して取り組んだ生徒、⑤水、森林、ダムがつながって自分たちの生活を支えていることを気付く関関図にした生徒(下写真)、⑥見えない上ノ原で、葉によって違う音、臭いの変化を感じた生徒など素晴らしい気付きをしていました。

中には、「普段の生活では経験できないこと」「水の大切さがわかった」「ダムは大事」「草原にしかないものがある」など具体的にない感想もあったようですが、藤岡さんが「どんな体験をした?」「冷たかった?」「怖かった?」「何があった?」などと突っ込んで指導してくれたようです。

中には、「普段の生活では経験できないこと」「水の大切さがわかった」「ダムは大事」「草原にしかないものがある」など具体的にない感想もあったようですが、藤岡さんが「どんな体験をした?」「冷たかった?」「怖かった?」「何があった?」などと突っ込んで指導してくれたようです。



また、草原であそぼうでは、あらかじめ与えた遊びだけでなく、ボッチ隠れ鬼ごっこをしたり、草原の黒ボクの地面を掘って遺跡発掘を試みたようです。この二人は何を発見したのでしょうか(左写真)。



このような感想や発想があったことを聞いてやりがいを感じています。

## ■2017 定例活動⑧「茅出し・雪の中、嫁ぎゆくボッチ」

草野 洋

今年最後の塾の活動はボッチを運び出す作業「茅出し」である。

上ノ原茅場には、10月に雨の中でボランティアが刈った茅ボッチ約80ボッチと、その後、藤原の茅刈衆である雲越萬枝さんと渡辺勇三さんが刈ったボッチ364ボッチの総数444ボッチ(2220束)立っているはずである。

茅出しの参加人数は19人、一人当たり20+αとなる計算、今年は茅刈衆が少なく、天候にも恵まれなかったこともあり、昨年の3865束の6割程度、過去最大であった2015年の5060束の4割程度である。

今回は天気は芳しくなく両日とも雨または雪の予報である。好天気の前日に倉庫の片づけをした3人が上ノ原に行くと、萬枝さんが自ら茅出しをしていた。刈った茅の6割ぐらいいすでに出され、残りは初日で終わること確実である。天気を心配した茅刈衆の配慮に感謝である。

雲が低くたれこめる中、集まった参加者に、明日は雨が確実なので今日一日でそれも2時間ぐらいいで終わり、残りの時間で茅刈ができるように頑張ってもらいたいとお願いして作業にかかってもらった。

茅出しは重労働であるがなぜか人気のある作業である。熟年者にはかなりきついが皆さん喜々としてやってくれる。予定通り2時間もかからず茅出しは終わった。

残りの時間を使って茅刈をやってもらうことにしたが、10人ほどが刈ったので10ボッチは増えているはずである。最終的な束数は明日、町田工業のトラックに積んだときにわかる。この日も町田工業からトラックが来て1回分を中之条に運んだ。

早めに作業を終了して、今夕の宿の「関ヶ原」へ。冷えた体をお風呂で温め、天然マイタケを添えた夕食に一同満足。

今夜の車座講座は、地元の写真愛好家の中村智子さん。(詳しい内容は次頁)

夜半になると雪が舞い、朝方は吹雪模様

で道路も3cm程度冠雪しているが、集落は



ボッチを倒し縛る



共同作業で縛る



熟年のチカラ



若者の力



雪に包まれ、いよいよ冬到来の雰囲気、宿の芳江さんに根雪になるかと聞くとまだまだとのこと。早朝、車を出し上ノ原に行ってみると雪景色の草原に変わっていた。



雪の中県道のボランティア活動

3回目である。

続いて上ノ原でのボッチの積み込み作業を手伝い、最後に山之口終いを実施することとした。

雪景色の中の積み込み作業、下から持ち上げる人、上で受け取る人、人海戦術の積み込み作業も終わり、町田社長の祭司で十二様の前で山之口終い神事を挙行。

今年の作業が無事に終わったこと、自然の恵みで沢山の茅の収穫できたこと、四季折々の素晴らしい景色を創り見せていただいたことに感謝して拍手を打った。



ボッチの積み込み作業



十二様



一年間の無事と恵みに感謝

それでも車の通行には支障がなく、少し青空も見えてきたので町田社長と連絡を取り、作業の段取りを整える。そして、まずは県道の側溝整備。これは群馬県との一年間の約束事であり今回が最終の

の代金約 5.5 万円が地域通貨ボッチ券の来年の原資となる。

トラックが発出するとき、自然の恵みと野焼きなどボラン



嫁ぎゆく茅ボッチ

ティアの手塩にかけたススキ娘(スス生娘)に「お役に立てよ」と願い、演歌の「娘よ」を鼻水をすすりながら歌って送った。

雪の中の昼食は 雪の中の作業も楽しかった づらいので宿で取らせてもらうことになっていたが、おいしいカレーが待っていて、おかわりをする人もいて鍋はたちまち空になってしまった(宿の事情が許せばこの方式もいい)。

この後、今回のづらい仕事に参加してくれたお礼として



直売場の賑わい

配布した 200 ボッチと今回の刈ったボッチ数に応じて配布したボッチ券を手に農産物直売所に・・・。

直売所では 4, 5 人のご婦人方がお茶、

栗おこわ、花マメ、山菜料理を用意して待っていてくれた。朝採れ野菜や名産花マメ、手芸品を買い求める参加者でお祭り騒ぎとなった。もちろんボッチ券以上の買い物である。たくさんのサービス品もあってまるで爆買いツアー。このような集落の人々との交流や農産物の販売促進がボッチ券導入のねらいの一つであったが、これは今年の大収穫である。

◆茅出し車座講座 講師 中村智子さん  
・・・藤原の愛らしい動物たちを撮り続けて・・・  
報告 稲 貴夫

一日目夜7時半からは、宿舎である「関ヶ原」の大広間に参加者が集い、車座講座。今回の講師は茅風通信「ホットショット」コーナーでお馴染み、地元で酒屋を営んでいる中村智子さん。

中村さんは10年ほど前からプロの写真家の指導をうけ、野鳥や動物の写真を撮りはじめたということです。そ



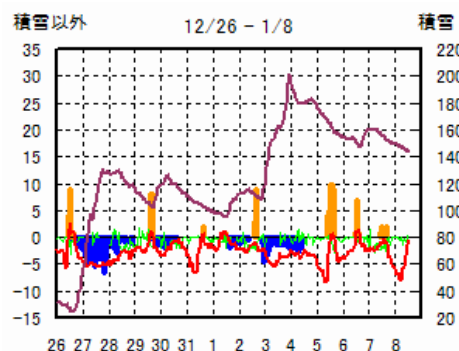
## ■藤原現地事務所報告

北山 郁人



昨年暮れから、みなかみ町は例年にない大雪に見舞われ、藤原の住民は除雪作業に追われています。12月26日から27日にかけて1m以上の雪が積もり、年が明けて1

月2日から3日にかけても1m以上の雪が降りました。この時は、24時間降雪量で日本一になり、ニュースでも報道されまし



た。1月7日現在の積雪は、150cm、累積積雪量

[凡例] ■気温 ■降水 ■風 ■日照 ■積雪  
<http://powdersearch.jp/>より  
 藤原・屋倉のアメダスのデータ

で485cmで、平年より3割ほど多い状況です。

昨年秋から、黒潮の大蛇行が発生しているのが大雪になると言われていました。2005年に発生した黒潮の大蛇行の時も自衛隊が出動するほどの大雪に見舞われています。大蛇行の原因はよくわかっていませんが、ほぼ10年に一度くらい発生し、一年以上続くようです。さらに、今年はラニーニャ現象と呼ばれる赤道付近の東太平洋で、海面水温が平年より低くなる状態が続いています。このラニーニャ現象の時には、強い寒気が流れ込みやすく、日本海側は雪の降りやすい気象条件となると言われています。今年は、大雪に警戒が必要です。

### 雪国あるある

雪の多い地域では、積雪で信号が見えなくなると、縦型の信号が設置されています。みなかみ町では、町内で日本海側と太平洋側の気候に分かれているので、南部は横型、北部は縦型です。ちょうど上牧(かみもく)という交差点(右下写真)からわかります。この信号は面白く、正面は縦型、右側は横型になっています。まさに縦型と横型の境になります。

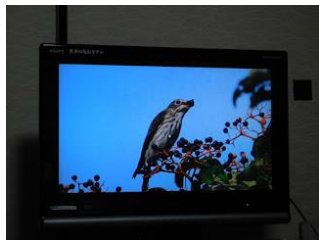
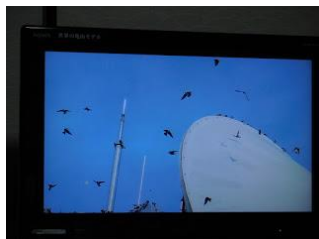


最近では、LEDタイプの信号が増えましたが、発熱量が少なく、雪が積もりやすいとか。信号の形状でその土地の雪の量がわかります。

の腕前は今やプロ級。犬の散歩の折にもいつも望遠レンズを装着した一眼レフカメラを持ち歩き、ここぞという現場に遭遇すると、連写機能を巧みに使って、一瞬を逃すまいと毎日とり続けています。

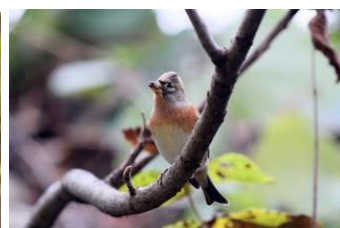
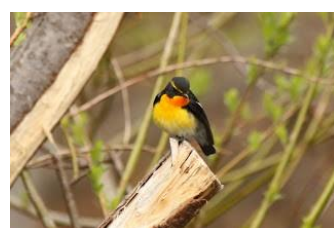


最近増えてきたカワウの憎たらしい姿、ハヤブサの勇壮な姿、テンのカメラポーズ写真、熊の親子連れ、人間が繁殖させた猪と豚の合いの子の雪中の突進、そして都会にいと目にする事のない野鳥の写真など、沢山披露してくれました。茅風通信では、その一部しか紹介できないのが残念です。



左上 カメラ目線のテン、右上 矢木沢ダムに集まり渡りの準備をするイワツバメ、左下 マヒワ(冬鳥)、右下 ミズキの実を啄むエゾビタキ(旅鳥)

次に掲げるのは、当日紹介された写真の中から草野塾長が選考した、愛らしい表情の野鳥、動物たちです。



左上 カエルをサンショウの枝に刺して「はやにえ」にしようとしているモズ、右上 里に下りてきたカモシカの親子、左中 巣で寄り添うノスリの幼鳥、右中 羽を広げて飛び立とうとするオオルリ(夏鳥)、左下 胸毛が鮮やかなキビタキのオス(夏鳥)、右下 アトリ(冬鳥)



## ■野守のつづき(12)

～ 死なば秋小さき墓に野の花を 麦南 ～

### ●「日光茅ボッチの会」に驚学！ 9月30日～10月1日。

同会のフィールド・奥日光土呂部の茅刈りに参加。昨年お手伝いしたスポットでは、コウリンカなどの生育が活発になったとの嬉しいお報せ。又、会員約30名による年間活動日数は延97日にも及ぶと聞いてびっくり！



感服したのは、地区に自生するイタヤカエデなどを原料にしたメープルシロップ作りの話し。地区のご婦人方のパワーを結集して樹液の採取や煮詰め作業などを担ってもらい、

260缶にも及ぶシロップを製造、地域の「道の駅」に販売したという！ しかも来る11月には、先進の秩父メープルセンターへ慰安を兼ねた視察ツアーを企画、その費用はシロップ売上代金から支弁の由！

藤原集落でも過去2年間、試行を続けて来たメープルシロップ作り。地域通貨「飲水思源」や物産直売所などと結び付けてキャッチアップしたいもの。

### ●麗澤学園フィールドワークに思う 10月25～26日。



今年も150名ほどの中学1年生を受け入れて「水源の森フィールドスタディ」。小生担当の生徒たちが嬉々と取り組んでいたプログラムは、落葉拾いしながらの自由観察、「柞の泉」の水辺

遊びや林縁部の藪漕ぎ、目隠し綱渡り、などだったか。

嬉しかったのは、当塾の合言葉「飲水思源」の意味が生徒たちに衆知徹底されていたこと。半面ちょっと残念だったのが、学園の理念「仁草木に及ぶべし」の理解がほとんどなかったこと。いずれも、1年生の自分史プロジェクト(自然の中における自分の理解)で習得すべき根幹部分。学園サイドの努力もさることながら、上ノ原の「草木塔」の活用など改善の余地あり。

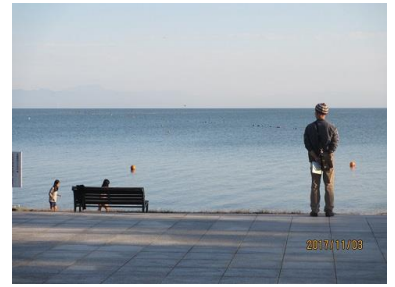
このプログラム、旧水上町役場より当塾が単独受託してから何年経っただろうか？ 今や、当塾の看板プログラムたることは勿論、みなかみ町が取り組む“エコパーク”にとって



も実に意義深い事業と思料。塾、学園、役場当局が共に創意工夫・意見交換して更に磨き上げるべきでは。

### ●晩秋、生前お別れご挨拶の旅 11月3日～6日。

健康寿命のある内に、大恩ある方々にお礼言上申し上げる旅の関西シリーズ。



初日は、当塾草創期の守り人仲間にして初代学監の海老沢秀夫さん。「現代版入会慣行を考える会」立ち上げの頃からのお付き合い。人と生き物が入り会う“コモンズ村・ふじわら”のコンセプトの構築・実践を担って下さった大恩人。昼間は氏が指導する琵琶湖西のフットパスを散策。夜はご自宅のある朽木集落の隠れ家「はせ川」で、超絶美酒「杣の天狗」を酌み交わしつつ旧交を温めた。生前お別れのつもりが、又会いたくなってしまうから困ったもの！



2日目は川端先輩にご案内賜り、奈良「山の辺のみち道」を歩き万葉の昔を偲ぶ。

3日目、明日香村入りして「飛鳥川の原風景を取り戻す仲間の会」の活動に参加。会の立ち

上げから、かれこれ20年のお付き合い。この間、フィールドは朝日新聞「日本の里百選」に。初代・嶋村会長はじめ事務局長の水谷さんや山守の会、森の手作り塾の皆さま方にもお礼ご挨拶が叶い本望であった。

### ●茅刈り～茅出し・山の口終い 10月21日～11月19日。

途絶えていた茅刈りを再開して15年。今年初参加の河辺さんのご感想をしみじみ聞いた。曰く「茅ボッチづくりは独りで黙々と、茅出し・積み込みはみんなで声かけあって。違いもあり、どちらもそれぞれに楽しかったです」と。



都人の尊き力萱積まる 林 ぬみ子 合掌。

今年の茅刈り実績は既報の通り。活動の後継・担い手対策に、衆知を集め流域の総力を結集すべき時。

平成29年玄冬(青)

### ～編集後記～

茅風通信第53号をお届けします。

今号は茅刈り特集です。その舞台である上ノ原は今、深い雪に覆われています。北山塾頭より「現地事務所報告」として、地球規模の自然現象と藤原の暮らしを織り交ぜながら、年末年始に大雪に見舞われたみなかみ町の様子を報告いただきました。太平洋の遥か彼方で起きている現象がどう影響するのか気になりますが、そんな人間の思惑をよそに、上ノ原の茅は雪が厚く積もった土の中で、春の芽吹きの時を静かに待っているはずです。(稲)